

いわきの子どもたちが

“こうすればできる”と『自信』をもって生きるために

本人・保護者、学校を支える

教育的ニーズの視点による「支援ガイド」



「通常の学級での学びガイド」



教育・保健・福祉・労働関係支援機関による
いわき地域支援チーム

目 次

1 本人・保護者の相談窓口マップ

2 教育的ニーズの視点による「支援ガイド」

3 「通常の学級での学びガイド」

4 参考資料：支援ツール集

本人・保護者の相談窓口マップ

1

- 市内には、園・学校等をサポートする支援機関があります。
- 令和5年度特別支援教育体制促進協議会等で、教育相談について共通理解を図り作成しました。

ご本人・ご家族への支援手続きの相談、関係機関への支援のつなぎ等に関して

生涯をとおして相談はこちらへ

あなたのお住まいの 各地区の保健福祉センター
 いわき障がい者相談支援センター



相談

まずは在籍している「園・学校へ」ご相談ください

障がい福祉サービスに関して
いわき市障がい福祉課

福祉機関等の連携に関して
いわき基幹相談支援センター



ライフステージ①

幼稚園等

就学

小学校

中学校

進学

高等学校

就労

卒後の生活

相談

まずは担任
園長等へ相談を

相談

相談

相談

まずは担任
特別支援コーディネーター等へ相談を

まずは担任
特別支援コーディネーター等へ相談を

サポート

サポート

サポート

サポート

子育てに関して

おやCoCo

保健師、子育てコンサルタント、家庭相談員、
ケースワーカー、民生員 など



子育て・発達障がい・不登校等に関して

いわき市教育委員会・総合教育センター

「教育支援室」22-3716



すこやか教育相談Tel 23-7261（電話相談）

・いじめ・子育て等

子ども健康教育相談Tel 22-3709（面接相談）

・発達障がい・不登校等



在学中から卒後の「就労」に関して

お仕事サポートセンター「ココカラ」

38-4533



公立幼稚園、保育所
統合保育等に関して



いわき市子ども支援課

特性に応じた専門相談に関して

いわき市子どもみらい部

「子育てサポートセンター」



就労に向けた支援に関して

いわき地域若者サポートステーション

障がい者雇用による就労について

いわき障害者就業・生活支援センター

幼小中高をサポート

体制作り等をサポート

市内特別支援学校「地域支援センター」福島県教育委員会いわき教育事務所



いわき教育事務所作成

- 本人・保護者、学校を支えるために、教育・保健・福祉・労働関係支援機関による「いわき地域支援チーム」でできることについて、令和6年度特別支援教育体制促進協議会等で、共通理解を図り作成しました。

教育的ニーズの視点による「支援ガイド」



2

教育的ニーズの視点による「支援ガイド」

こんなことありますか？



- △ 子どものマイナス面ばかり気になって、どうしたらいいか分からない。
- △ 自立活動の指導で子どもから「なぜやるの？やりたくない。」と言われた。
- △ 保護者から合理的配慮の要望があったが、どう対応すればよいか。
- △ 「個別の教育支援計画」を作成しているが、評価が曖昧で引き継げない。
- △ やるべきことが多くあり、つながりや全体像が分からない。

解決のヒント



- 困っているのは「誰か」？を考える。
- 「なぜだろう？」と行動の意味や背景を考える。
- 「教育的ニーズ」の視点をふまえて、
子どもの実態をバランスよく把握する。
「この子はどうすればできる」（→支援者による「子ども理解」）
- 「本人目線」で、支援者と子どもとの対話をとおり
子どもが自己理解をする。
「自分はこうすればできる」（→本人による「自己理解」）

このことは、

「△△という困難さがあっても、○○という指導、○○という支援があることで、○○できる」
つまり「こうすればできる」という「教育的ニーズ」の視点をふまえて評価することで、
子どもの実体像にせまることができる。

「個別の教育支援計画」の作成、修正がしやすくなり、役立つ情報を引き継ぐことができる。

“こうすればできる”という 支援者の子どもも理解・本人の自己理解へ

単に、できないことができるようになるという意味ではなく・・・

「教育的ニーズ」の三つの観点

① 障がいの状態等

△△という
困難さがあっても

② 特別な指導内容

〇〇という
適切な指導と

③ 教育上の合理的配慮を
含む必要な支援の内容

□□という
必要な支援があれば・・・

本人が既にできていることや、得意なことを活かしながら、
「なりたい自分」に近づくことができる。

不安や自己否定ではなく・・・



この“こうすればできる”を
子ども本人が学習や経験をとおして実感する。



ライフステージをとおして
“こうすればできる”を
支援者は伝える。
本人は学習や経験を通して
実感する。

合理的配慮

自立支援・本人支援 / 自立活動

「何のための自立活動？」と
尋ねられて、
本人が
「自分がこうなるためです」と
相手に伝える。

自立活動の時間等が、子ども本人がなりたいたい自分やWell-beingのために、「こうすればできる」
(つまり、「こんな学習・練習をがんばるとできる」「こんなサポートがあるとありがたい」)
を学んで、「自己理解」につながる場になる。

地域で学び・生活するために

普段からの言葉かけ
普段からの対話

どうしたらできたの？
おしえて！（過去）

こうしたらできたね！
（現在）

どうすればできると思う？
（可能性、未来）

子ども本人が“こうすればできる”と自信をもって学び、生活していく

a かな？b かな？
それともc（自己選択）

あなたは どう思う？
（自己決定）

あなたは どうなりたいたい？
（将来の夢）



「こうすればできる」を本人と共有する。

「こうすればできる」という評価内容を校内、保護者、外部機関と共有する。

「こうすればできる」という評価内容を進路先に引き継ぐ。

【教育】 個別の教育支援計画・個別の指導計画

【福祉】 サービス等利用計画・個別支援計画

教育・福祉で
「こうすればできる」を
共有する。

園や学校で実際に確かめた
「こうすればできる」という
子ども本人にとって
必要な指導・支援内容
(評価内容)と
就学先の「学びの場」が
提供できる指導・支援内容との
マッチングをする。

就学

進学

入試

就労

「あなたの合理的配慮は？」と
尋ねられて、
本人が
「こうすればできます」と
相手に伝える。



幼



小



中



高



企業等



教育的ニーズの整理

教育的ニーズとは、子供一人一人の障害の状態や特性及び心身の発達段階等を把握して、具体的にどのような特別な指導内容や教育上の合理的配慮を含む支援の内容が必要とされるかということを検討することで整理されるものである。

教育的ニーズを整理するために

①
困難さ

②
指導

③
支援

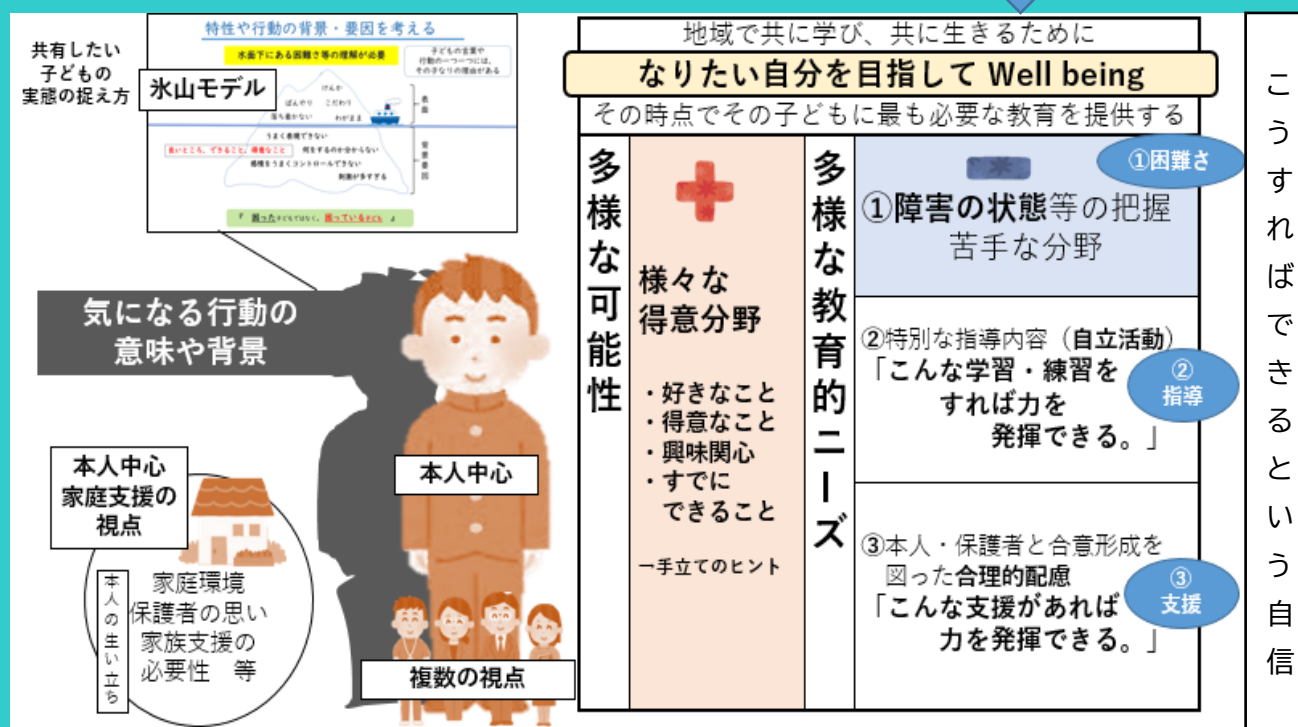
その時点でその子供に最も必要な教育を提供することが重要

①障害の状態等

②特別な指導内容

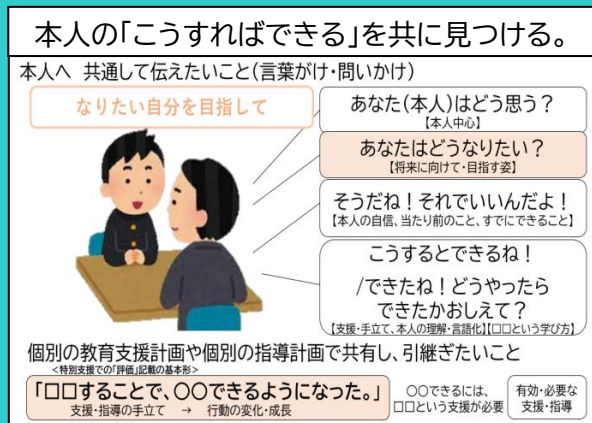
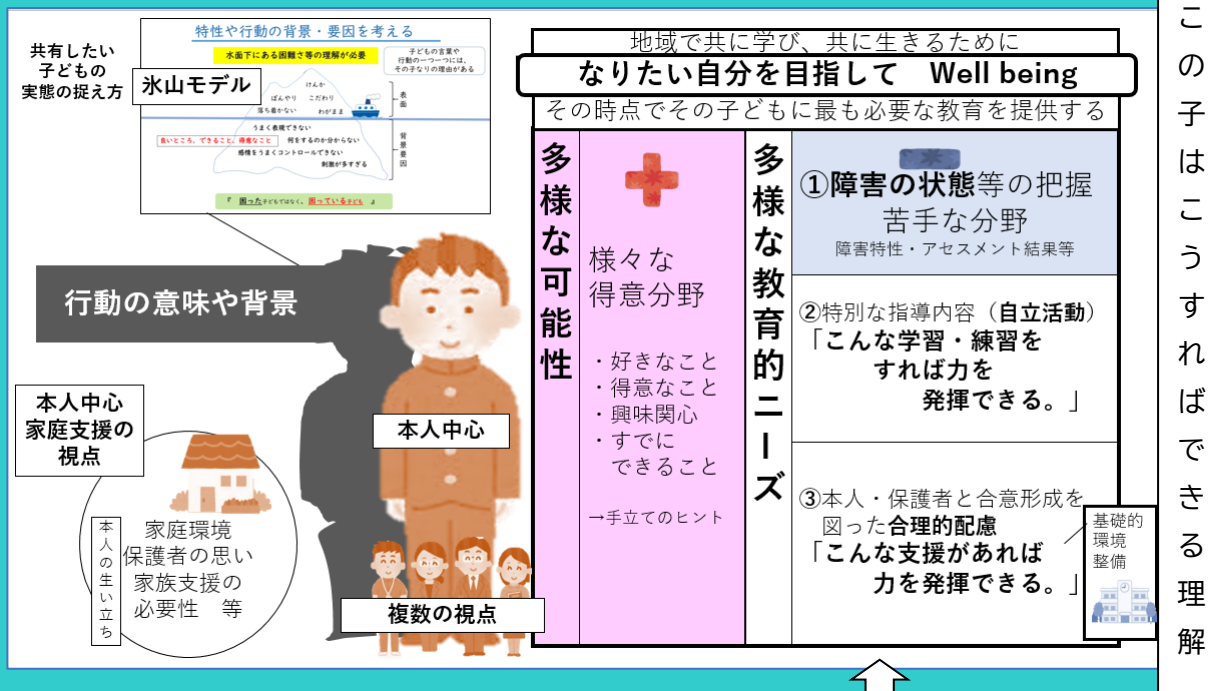
③教育上の合理的配慮を含む必要な支援の内容

令和3年6月 文部科学省「障害のある子供の教育支援の手引」より

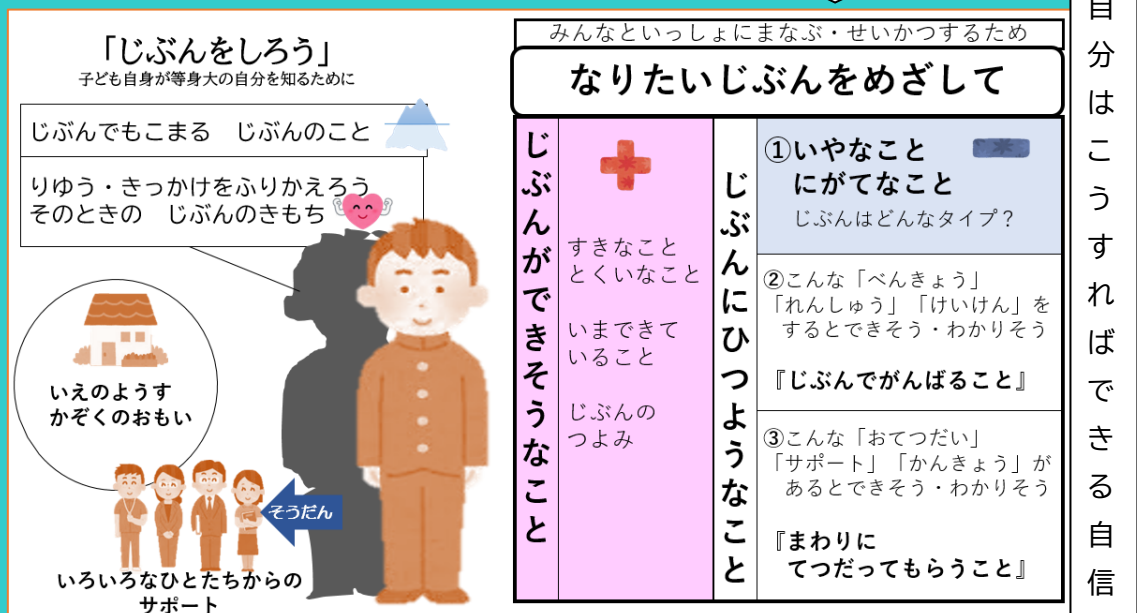


全体図①「支援ガイドマップ」

<支援者目線>




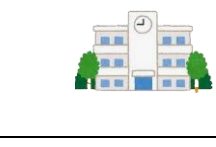

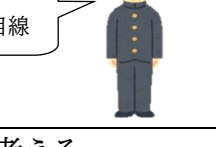
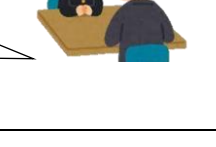


<本人目線>



→さらに通常学級での「教育的ニーズ」と「授業のユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業改善

全体図②「支援のステップ」

スタート 1	○ 支援者が困っているのか？ それとも、子ども(本人)が困っているのか？に気づく。	困っているのはだれ？ 
2	○ 支援者が気になる子どもの「行動の意味や背景」を捉えて支援策を考える。	なぜだろう？ 行動の意味や背景 
3	○ 支援者が子どもの実態を「教育的ニーズ①②③」の視点でバランスよく整理する。	
4	○ 支援者が子どもの実態を「教育的ニーズ①②③」の視点、さらに必要な視点を加えて整理する。 支援者の子ども理解	なりたい自分、できていること等 
5	○ 支援者が合理的配慮の基礎となる環境整備について考える。	
6	○ 支援者の子どもへの問いかけ・言葉がけについて振り返る。	本人に聞いてみる 
7	○ 支援者が子ども理解の視点を「本人目線」で捉え直す。 本人の自己理解	本人目線 
8	○ 必要な視点について、支援者が <u>本人との対話を通して具体的に考える。</u> ・「自分のつよみ」 ・「自分に必要なサポート」(合理的配慮) ・「自分の中心課題」(自立活動) ・「自分の行動の理由」 ・「なりたい自分」(将来の夢) など	ポジティブで 具体的な言葉がけ 対話しながら 
9 ゴール	○ 支援者(保護者)の子ども理解、本人の自己理解が深まる。 <u>「自分には、〇〇といった困難なことがあっても、〇〇(支援)を受け、〇〇(学習・練習)することで、〇〇(なりたい自分・目標)できる」という理解</u> <u>この「〇〇すればできる・分かる」を支援者、保護者と共有し引き継ぐ。</u> 「自分はこうすればできる」という自信をもつことができる。 ○ 個別の教育支援計画、個別の指導計画の評価、引継ぎ・活用につながる。 ○ 個別の教育支援計画、個別の指導計画が本人に役立つツールになる。	

3

「通常の学級での学びガイド」



「通常の学級での学びガイド」

こんなことありますか？



- △ 支援が必要な児童生徒が多くて、個別の対応で精一杯で疲労困憊する。
- △ 相談できずに一人で悩んでしてしまう。
- △ この子には特別支援学級等の学びの場の方が良いのではと悩む。
- △ 特別支援教育について、専門的なことは分からないと不安になる。



解決のヒント

- 特別支援や福祉等とつながり、視野を広げチーム支援へ。
- まずは、授業の全体指導の工夫、環境整備からスタートする。
- そもそも何のために？ 育成する資質能力を明確にする。
- つまずきを想定し「どうしたらできるか？」解決策を考える。
- A さんへの支援は、B くんにも、全体指導にも有効である。
- A さんがいることで、教師も他の子どもにとっても学びになる。
- 授業の手立てや教材・掲示物をできるだけ教員間で共有する。
- 日頃から教師がポジティブに関わり、子どものモデルになる。
- 本人へ「どうしたらできたかおしえて？」と問いかける。
- 日頃から本人が小さな自己選択・自己決定を積み重ねる。

・なお、教育的ニーズの視点による「子ども理解」が基本になります。

※教育的ニーズの視点による「支援ガイド」(解決のヒント)を参照

通常の学級での学びに向けて

「わかりやすい授業」とは？

答えがすぐに「分かる」のではない。教師が答えをすぐに教えるのではない。
教師がすべてやってあげるのではない。

例えば…

<内 容>

・いま何について考えるか、何をすることが「分かる」

<見通し>

・授業や単元の見通しを持って自分は今日の段階かが「分かる」

<ねらい>

・何のための学習なのかが「分かる」

<方 法>

・考えを深めるために必要な方法や情報が「分かって」選択できる等

全員が自分で考えるための「スタートライン」に立つ。

全体指導の工夫と
個別の配慮等により
児童生徒全員が
考えるスタートライン
に立てるようにする。

そのためには
教師の自由な発想
(リフレーミング)が
必要
例えば…
焦点化・視覚化・言語化、
動作化等の方法を参考に
する。

〇〇できない子と捉えるよりも
〇〇できるにはどうするか
を考える。

自分の考えを深めることを目指す。

通常の授業改善

授業のユニバーサルデザインの視点での 授業改善

○障害のある児童生徒を含め多様な児童生徒が
通常の学級に在籍していることを前提……
(R5年3月文科省通知)

○子どもの実態把握(想定されるつまずきを捉える)
「ふくしまの授業スタンダード」より

発達障がい等、支援が必要な児童生徒を
含むことを前提とし、児童生徒全員を対象とする。

児童生徒のつまずきを想定する。
なぜ？行動の理由や背景を考える。

A君への
支援は
Bさんへも
全体へも
有効かも

まずは全体指導の工夫からスタート

主体的・対話的・深い学び
(授業改善の視点)

主体的・対話的・深い学び
(授業改善の視点)

こうしてほしい行動を
具体的にいくつか想定する。

例)焦点化・
視覚化・言語化・
動作化・共有化
など

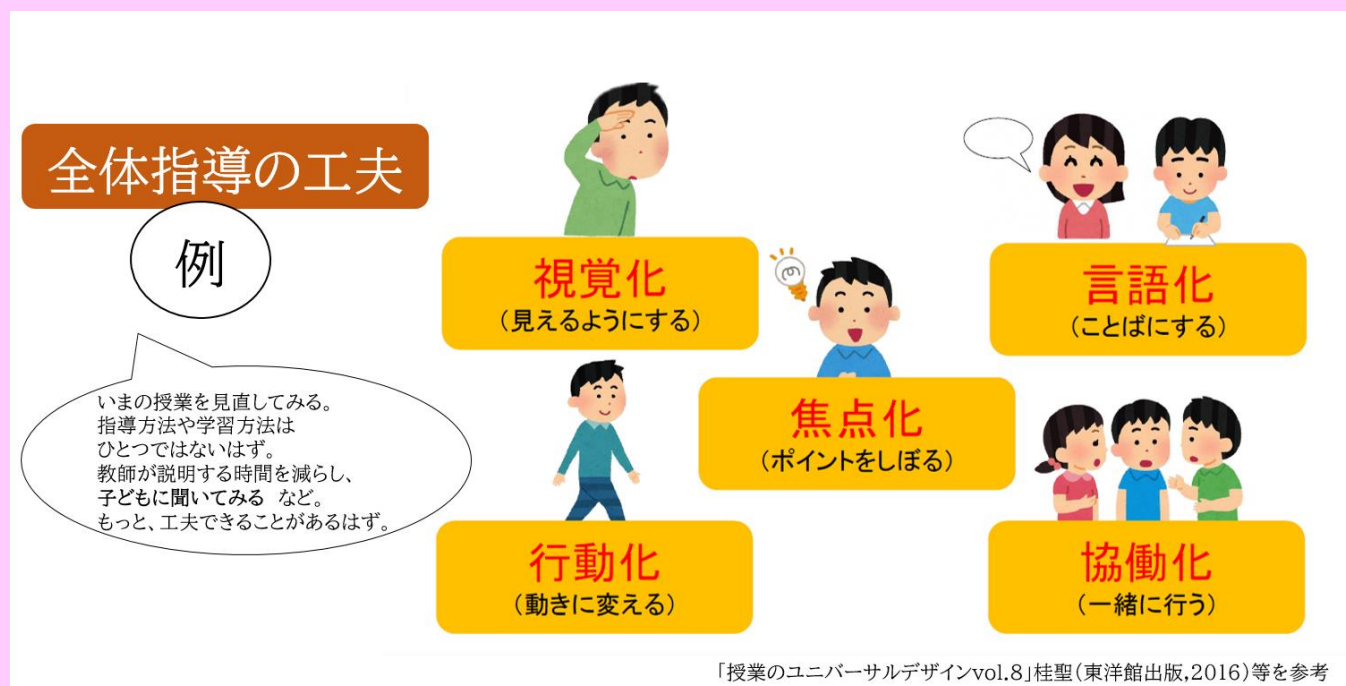
より明確、
具体的

各教科等の見方・考え方を働かせる

ねらいは同じ

各教科等の資質・能力の育成、生きる力を育む

通常の学級での学びに向けて



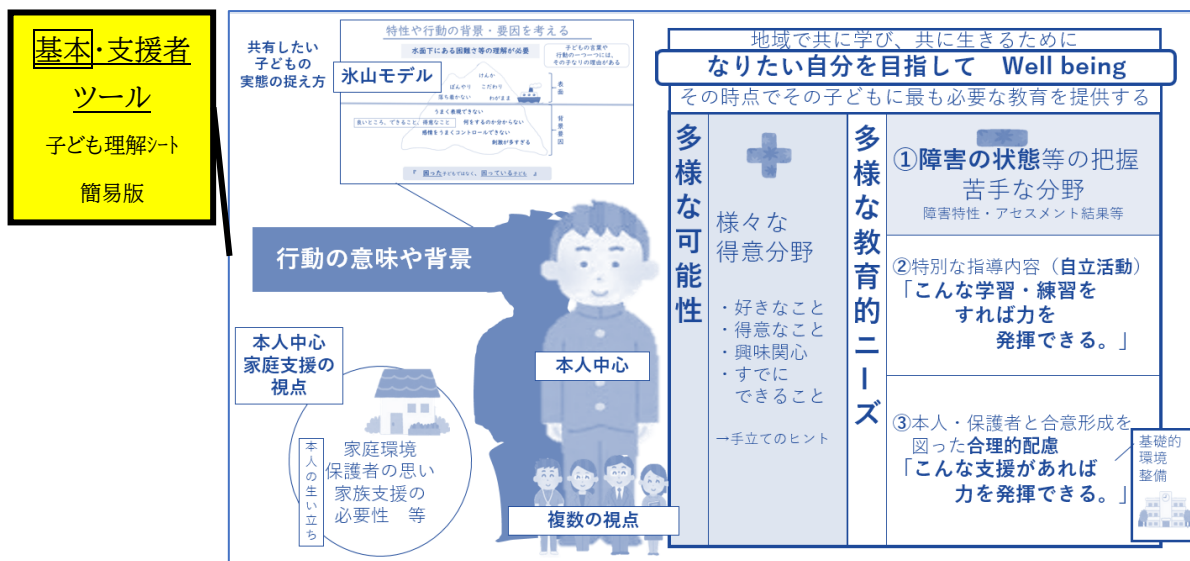
→ 参考:研修ツール「教育的ニーズと授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善ワークシート」があります。

参考資料：支援ツール集

4

以下の観点で、必要に応じて「支援シート」を選んで活用することもできます。

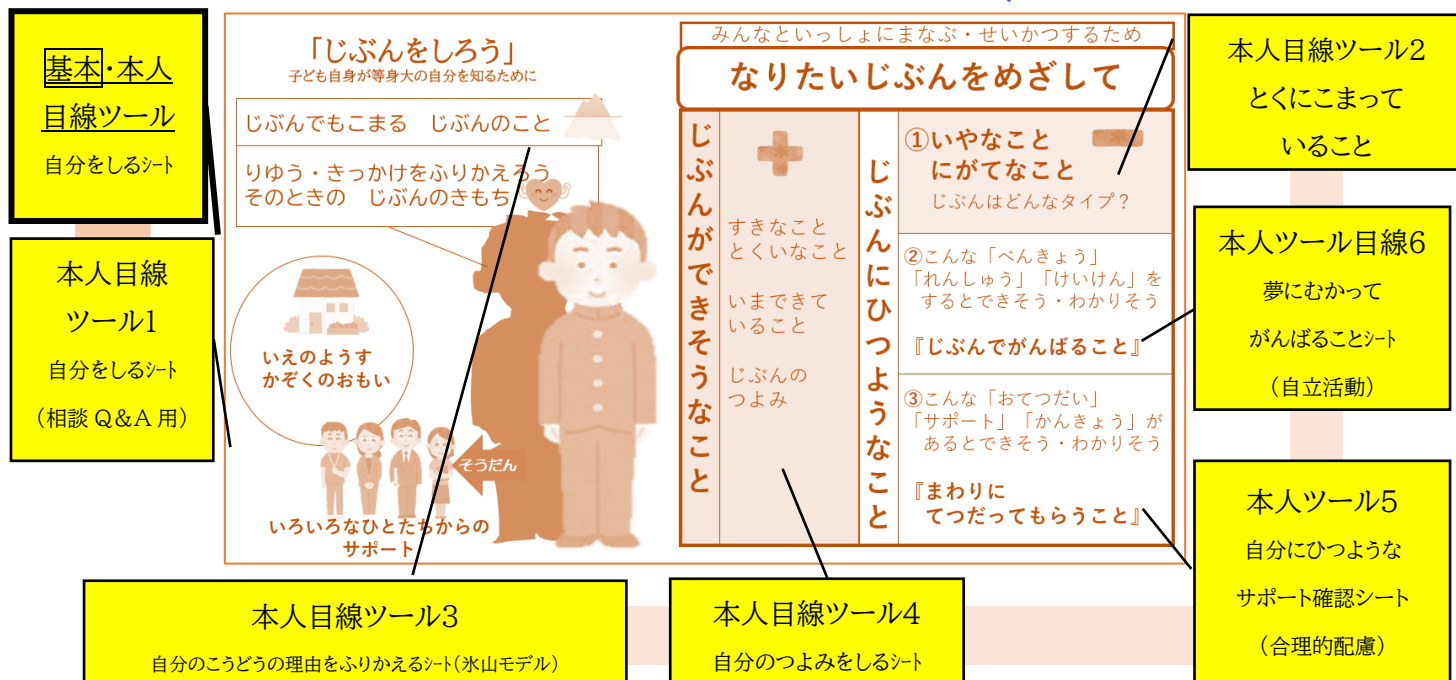
<支援者目線>



共通する『教育的ニーズの視点』による 「本人の自己理解」と「支援者の子ども理解」


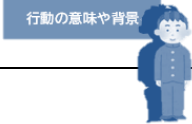







<本人目線>



→参考<研修ツール・支援者用>教育的ニーズと授業のユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善ワークシート

以下のステップで、必要に応じて「支援シート」を選んで活用することもできます。

スタート		
1	○ 支援者が困っているのか？ それとも、子ども(本人)が困っているのか？に気づく。	
2	○ 支援者が気になる子どもの「行動の意味や背景」を捉えて 支援策を考える。	
3	○ 支援者が子どもの実態を「 <u>教育的ニーズ①②③</u> 」の視点で バランスよく整理する。	
4	○ 支援者が子どもの実態を「 <u>教育的ニーズ①②③</u> 」の視点、 さらに必要な視点を加えて整理する。 → 支援者用:基本ツール「子ども理解シート」 へ支援者が記入して検討する。	
5	○ 支援者が合理的配慮の基礎となる環境整備について考える。	
6	○ 支援者の子どもへの問いかけ・言葉がけについて振り返る。	
7	○ 支援者が子ども理解の視点を「 <u>本人目線</u> 」で捉え直す。 → 支援者用:基本ツール「本人目線バージョン」じぶんを (自己理解)シート へ支援者が記入して検討する。	
8	○ 必要な項目について、支援者が <u>本人との対話を通して具体的に考える。</u> →支援者用「本人目線バージョン」を活用 ・「 自分のつよみをするシート 」 ・「 自分にひつようなサポートをするシート 」 ・「 自分の中心課題確認シート 」 ・「 自分の行動の理由を考えるシート 」 ・「 ゆめにむかってがんばるシート 」	→本人との対話を通して 各シートへ「 <u>支援者</u> 」が記入  →本人との対話を通して 各シートへ「 <u>本人</u> 」が記入
9 ゴール	○ 支援者(保護者)の子ども理解、本人の自己理解が深まる。 「 <u>自分には、○○といった困難なことがあっても、○○(支援)を受け、 ○○(学習・練習)することで、○○(なりたい自分・目標)できる」という理解 この「○○すればできる・分かる」を支援者、保護者と共有し引き継ぐ。 「<u>自分はこうすればできる</u>」という自信をもつことができる。</u>	
	○ 個別の教育支援計画、個別の指導計画の評価、引継ぎ・活用につながる。 ○ 個別の教育支援計画、個別の指導計画が本人に役立つツールになる。	

参考：「支援ツール」一覧

支援者用 基本ツール	この子はどうすればできる 「こども理解シート」
本人目線 バージョン 基本ツール	自分はどうすればできる 「じぶんをやるシート」(自己理解)
本人目線 バージョン 参考 ツール	1 じぶんをやるシート・相談Q&A用
	2 とくにこまっていること確認シート(中心課題)
	3 自分のこうどうの理由をふりかえるシート(冰山モデル)
	4 自分のつよみをやるシート
	5 自分にひつようなサポート確認シート(合理的配慮)
	6 夢にむかってがんばるシート(自立活動など)
<参考> 支援者用 研修ツール	※通常の学級での学びへ 教育的ニーズと授業のユニバーサルデザインの 視点を取り入れた授業改善ワークシート





【注意点】

支援者がチェックしやすい、活用しやすいようにワークシートを作成していますが、全てのシート、全ての項目を記入する必要はありません。
子どもの実態やねらいに応じてご活用ください。




(支援者用)

○教育的ニーズを整理することは
「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の
作成、評価、修正等に活かすことができます。
○ケース会議に活かすこともできます。

参考

できている・できるようになった行動「_____」の 背景要因・理由などを3つ以上予想してみましょう!	
①	 
②	
③	
気になる行動「_____」の 背景要因・理由などを3つ以上予想してみましょう!	
①	 
②	
③	



すぐにできそうな レベル	【自分ならこのような支援・指導ができるかも】 ※付箋に書いて貼る、直接書き込む等活用しましょう。
5	(準備に時間がかかりそう)
4	
3	
2	
1	(すぐにでもできそう)


じぶんでもこまるこうどう
「」
じぶんでもうれしいこうどう 
「」



りゆう・きっかけ

かぞくのおもい


なまえ

みんなといっしょに、まなび、せいかつするために	
じぶんは「	」したい・「
じぶんのゆめ・しあわせ・なりたいじぶん「	」
じぶんができそうなこと・じぶんのつよみ 	
好きなこと、とくいなこと、いまできていること	
じぶんにひつようなこと	
① いやなこと、にがてなこと？  自分はどんなタイプか？	
② こんな「べんきょう」、「れんしゅう」、「けいけん」をするとできそう・わかりそう 「じぶんで がんばること」	
③ こんな「おてつだい」「サポート」「かんきょう」があるとできそう・わかりそう 「まわりにてつだってもらふこと」	

園学校	
学年	
学級	
面談者	
回覧 など	

<かくにん>
ないようが、わかりましたか？ ☐
いっしょにかんがえましたか？ ☐
じぶんの がっこう、きょうしつなどのようす

じぶんが そうだんできるひと


こ
う
す
れ
ば
で
き
る

【まとめ】わたしは..
まわりのサポート: _____ と
がんばること: _____ することで
もくひょう: _____ できるはず 

「じぶんをしるシート(相談 Q&A 用)」(はなしあいながら、いっしょにかんがえよう！)

Q1 あなたの すきなこと、とくいなこと、いまできていること は 何ですか？

・
・
・



なまえ

()

Q2 あなたは しょうらい、どんなことをしたいですか？ どんなひとになりたいですか？

○
○

Q3 あなたの いやなこと、にがてなこと は 何ですか？ →また、どうやってのりこえていますか？

●
●

→



Q4 こまったときに、そうだんできるひと は いますか？ (かぞく・せんせい・ともだち・そのほかのひと)

・
・



Q6 あなたの いまの もくひょう は 何ですか？ (できるだけ、ぐたいてきに)

○

Q7 もくひょうの ために、どんな「おてつだい」「サポート」「かんきょう」があると、できそうですか？

「まわりに てつだってもらふこと」

・
・

Q8 もくひょうの ために、どんな「べんきょう」「れんしゅう」「けいけん」をすると、できそうですか？

「じぶんで がんばること」

・
・

<まとめ>「こうすればできる」

わたしは、「(まわりにてつだってもらふこと:Q7) _____」や

「(じぶんでがんばること:Q8) _____」することで、

「(じぶんのもくひょう:Q6) _____」できるはず



「自分の中心課題確認シート」

(とくにこまっていることは?)

- ① じぶんが困っていることを6つに分ける。
- ② かんけいしていそうなものどうしを下の矢印でつなぐ。

「困っていることA」 ↔ 「困っていることB」

- ③ 困っていることの、りゆうになりそうなものどうしを下の矢印でつなぐ。

「困っていることC」 ※Dのりゆう → 「困っていることD」
『Cに困っているからDにも困る』

- ④ 矢印がかさなったものが、とくに困っていること。

日時
なまえ
()
相談支援担当者
()
本人目線バージョン

コミュニケーション コミュニケーションに関すること

ひととのかんけい 人間関係の形成に関すること(※自己の理解を含む)

みる・きく など のかんかく 環境の把握に関すること(※感覚・認知の特性理解を含む)

からだのうごき 身体の動きに関すること

【まとめ】とくにこまっていること(中心になる課題)
将来こうなりたい「 」



こころ 心理的安定に関すること(※改善克服する意欲を含む)

けんこう 健康の保持(※障害特性の理解を含む)

じぶんの「べんきょう」「れんしゅう」「けいけん」『じぶんでがんばること』
・
・

「自分の中心課題確認シート（とくにこまっていることは？）」の記入の前に・・・



※自立活動の6分野で分ける前に、「こまっていること」「いやなこと」「にがてなこと」を思いっただけあげてみる。付箋に書いて貼っていく、表に直接書くなど。

以下の枠を使って、こまっているレベルで分けてみる。（記録者がメモする、または付箋に書いて貼り、その後分類するなど）

こまっているレベル	「こまっていること」「いやなこと」「にがてなこと」など	その他
5	※じぶんで、いちばん、こまっていること（じぶんでもこまってしまうじぶんのこうどう）は <u>「じぶんのこうどうのいみをふりかえるシート」</u> をつかって、せいいりしてみよう。	
4		
3		
2		
1		

★使用例「すでにできている行動」が「なぜできるのか？」からスタートする。その後、「まだできていない行動」について考える。(シート①→シート②)

じぶんのこうどうの「りゅう」をふりかえるシート①(行動の背景・冰山モデル)



A そのまえに
なにがあった？

なぜ？きっかけ
(ばしょ・じかん・ひと・ないよう、
いえのできごと など)

B じぶんでもうれしい
じぶんのこうどう
「
」

じぶんのきもち

B のまえ

B のあと

<まとめ> じぶんはどんなタイプ？

メモ

C そのあとどうなった？

まわりは？

じぶんは？

じぶんのこうどうの「りゅう」をふりかえるシート②(行動の背景・冰山モデル)





本人目線バージョン

<p>A そのまえに なにがあった？</p>	<p>B じぶんでもこまる じぶんのこうどう 「 」</p>	<p>C そのあとどうなった？</p>					
<p>なぜ？きっかけ (ばしょ・じかん・ひと・ないよう、 いえのできごと など)</p>	<table border="1"><tr><th colspan="2">じぶんのきもち</th></tr><tr><td>B のまえ</td><td>B のあと</td></tr></table>			じぶんのきもち		B のまえ	B のあと
じぶんのきもち							
B のまえ	B のあと						
<p><まとめ>じぶんはどんなタイプ？</p>		<p>× モ(のりこえるための ほうほう など)</p>					


「じぶんの『つよみ』をしるシート」


本人目線バージョン

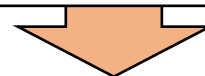
日時
なまえ()
相談支援担当者
()


あんしん・おちつくこと	すきなこと <small>興味関心</small> 
・ ・	じぶんいがいのひとからの いけん ← 



いま できていること <small>困難少なくできる行動(※当たり前と思っていることに注目する)</small>	
・ ・ ・ ・ ・	じぶんいがいのひとからの いけん ← 

とくいなこと <small>自信をもって行うことのできる行動</small>	
・ ・	じぶんいがいのひとからの いけん ← 



これから、じぶんができそうなこと (じぶんの『つよみ』、可能性、将来の夢) ○ ○	じぶんいがいのひとからの いけん ← 
---	---

「じぶんの『つよみ』をやるシート」を書くまえに・・・

「あんしん・おちつくこと」「すきなこと」「すでにできていること」「とくいなこと」で分ける前に、自分が普段の生活でよくしている行動を思いっただけあげてみる。
付箋に書いて貼っていく、表に直接書くなど。

以下の枠を使って、よくしているレベル(頻度・回数の多少)で分けてみる。(記録者がメモする、または付箋に書いて貼り、その後分類するなど)

よくしているレベル	じぶんが ふだん よくしていること	その他
5		
4		
3		
2		
1		

日時
なまえ
()
相談支援担当者
()

せんせいといっしょに
かんがえましたか？

☐

せんせいのせつめいを
きいて、ないようが
わかりましたか？

☐

「じぶんにひつようなサポートをのしるシート」

合理的配慮の観点で必要な支援内容を整理する。

じぶんに ひつような「おてつだい」「サポート」「かんきょう」「まわりに てつだってもらふこと」

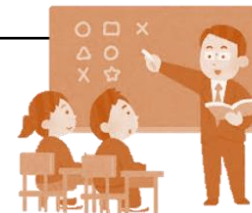
本人目線バージョン

まわりのおてつだい
サポート、かんきょう
支援体制



べんきょうの「ないよう」
べんきょうの「ほうほう」
ほじょぐ・ツール

教育内容・方法



がっこうのたてもの、
きょうしつ

施設設備



○じぶんのおもひ

○保護者の思い



「じぶんにひつようなサポートをするシート」をかくまえに……

合理的配慮の観点で分ける前に、普段の生活や学習で、あるとうれしいサポートについて思いっただけあげてみる。付箋に書いて貼っていく、表に直接書くなど。

以下の枠を使って、あるとうれしいレベルで分けてみる。(記録者がメモする、または付箋に書いて貼り、その後分類するなど)

あるとうれしいレベル	じぶんに あるとうれしい「おてつだい」「サポート」「かんきょう」などの『まわりに てつだってもらうこと』	その他
5		
4		
3		
2		
1		

ゆめに むかってがんばるシート

本人目線バージョン

なまえ()

なりたいじぶん・しょうらいのゆめ・しあわせ

じぶんで「がんばる」こと(べんきょう・れんしゅう・けいけん)

こ
う
す
れ
ば

・
・



で
き
る

あるとありがたい「まわりのおてつだい」、「サポート」、「かんきょう」

・
・

じぶんのすきなこと・とくいなこと・いますでにできること

・
・



[illegible]

7 授業のUDの視点を参考に、授業全体でできそうな「指導の工夫」があれば <input checked="" type="checkbox"/> ※チェック後、その項目について具体的な指導の工夫を前ページ「6」に追記する。			
【焦点化】		主体的	
<input type="checkbox"/> 生徒の「問い」や「思い・願い」を引き出す学習課題を設定する。(意図的に間違った文章提示) <input type="checkbox"/> 子ども一人一人に追求・解決の計画や見通しをもたせる。			
【視覚化】		主体的	
<input type="checkbox"/> 授業の流れ、論理の展開が分かるような構造的な板書にする。 <input type="checkbox"/> ワークシートを活用して、今何を考えるかを明確にする。(ワークシートの使用) <input type="checkbox"/> 児童生徒の思考が見えるように図示などする。			
【言語化】		主体的	
<input type="checkbox"/> 教科の「見方・考え方」を意識できるような発問をする。 <input type="checkbox"/> 情報量を精選して、具体的な説明をする。			
【共有化】		対話的	
<input type="checkbox"/> ペア学習やグループ学習を取り入れる目的を明確にもっている。 <input type="checkbox"/> 本時のねらいに迫るように話し合いをコーディネートしている。(トークフォークダンス)			
【動作化】【作業化】		主体的	
<input type="checkbox"/> 身体表現を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 活動の時間を設ける。(トークフォークダンス) <input type="checkbox"/> ロールプレイを取り入れる。 <input type="checkbox"/> 学習スペースを設定し移動して学習する			
【ルールの明確化】		主体的	
<input type="checkbox"/> 授業の約束事や学習に向かう心構えを明確にする。 <input type="checkbox"/> 授業ルールを暗黙のルールにしない。 <input type="checkbox"/> 考える時間、表現する時間を明確にして確保する。			
【具体的な指示】	主体的	【スモールステップ】	主体的
<input type="checkbox"/> ノート・ワークシート指導を継続的に行う。 <input type="checkbox"/> 具体的にひとつずつ指示する。 <input type="checkbox"/> 抽象・批判・比較・皮肉をしない		<input type="checkbox"/> 個人差への配慮をする。 <input type="checkbox"/> 発問、課題をひとつずつ示す。 <input type="checkbox"/> ひとつずつできたことを認める。	
【刺激量の調節】	主体的	【プラスのフィードバック】	主体的
<input type="checkbox"/> 授業内容以外の刺激を減らす。 <input type="checkbox"/> 説明を精選、音量に配慮し、音刺激を減らす。		<input type="checkbox"/> 今好ましい行動は何かを伝える。 <input type="checkbox"/> 考え方、学び方を認め、称賛し価値付ける。	
【場の構造化】	主体的	【学び合う雰囲気づくり】	対話的
<input type="checkbox"/> 教室内、掲示物等を整理整頓する。 <input type="checkbox"/> 個々の特徴に合わせた座席を配置する。		<input type="checkbox"/> クラスのポジティブな理解促進 <input type="checkbox"/> それぞれの学び方を認め合う。	
【時間の構造化】	主体的	【役割を持たせる】	対話的
<input type="checkbox"/> 単元等の見通しを分かるようにする。 <input type="checkbox"/> 予定の変更を視覚化して提示する。 <input type="checkbox"/> 考える、表現する時間を明確に確保する		<input type="checkbox"/> 学び合う学級の一員と認める。 <input type="checkbox"/> 授業中に役割がある。 <input type="checkbox"/> 役割を果たした際に感謝を伝える。	
【般 化】	深い学び	【マイナスの注目を減らす】	主体的
<input type="checkbox"/> 実際の生活に使えるように具体化する。		<input type="checkbox"/> 好ましくない行動をスルー	
<input type="checkbox"/> 振り返り・自己評価・相互評価の時間を設ける。			深い学び
→児童生徒全員が授業に参加して、教科等の資質能力を育むことができる「分かりやすい授業」 多様性を認め合う学習集団、学級づくりを目指す			

※本シートを参考にして、1時間の授業構成を整理する。振り返りの時間を確保し、中心活動、発問等を精選する。

以下については、ホームページに掲載しない。

5

参考資料：支援ツール活用事例集

参考資料：研修ツール活用事例集

R7年3月 いわき教育事務所作成

福島県教育庁 いわき教育事務所
学校教育課（指導担当）

▶特別支援教育 のページは [こちら](#)

